

新開発のHonda最小径ステアリング

小気味よいドライビングが楽しめるよう、ステアリングホイールには、Hondaの市販車として最小径となるφ350mmのものを新開発しました。

握り心地には特にこだわり、特にドライバーが常時触れることになるポジションについては、何度も試作を繰り返しながら、リム上の「こぶ」や「えぐり」の形状を検討していきました。さらに、乗降性やデザイン性を重視し、ステアリングホイールの下端を水平に切り取った「Dカット」と呼ばれる形状を採用。大舵角時にも違和感が無いよう、Dカット部分の角を丸めるなどの工夫を施しました。



クルマと人の動きをシンクロさせる新設計スポーツシート

ワインディングロードで身体が大きく振られてしまうようでは、その楽しさも半減してしまいます。そこで、ワインディング走行時でも正確な運転操作ができるよう、シートのホールド性やフィット感を高め、ドライバーの腰を安定させられることを目標としたスポーツシートを開発しました。

サイドサポートの張り出しを大きくしたり、いたずらにクッションの硬度を上げたりといった手法ではなく、シートとドライバーが接する面積をなるべく大きくし、体圧分布の分散を図ることでフィット感を向上。クッションの硬度を部分的に調整したり、パッドの位置を工夫したりすることで、十分なホールド性と、ロングドライブも可能な快適性も両立させています。



- 肩に沿ったラウンド形状
- 横G入力に対し、骨盤から脇、腿をしっかり支えるサイドサポート構造
- シートと身体の間隙を埋めるタイトな幅
- 加減速、旋回時の腰ズレを抑制
- シートフレーム構造の最適化により超低hipポイントを実現

ヒール&トゥがしやすい最適なペダル配置

ミリ単位で各種メカニズムの配置を突き詰めながら、ドライバーがアクセルを踏む、ブレーキを踏む……といった操作そのものに喜びを感じられるよう、ペダルの配置にこだわりを込めました。

エアコンをはじめとしたユニットを小型化することでスペースを稼ぎ出し、コーナリング中のドライバーの姿勢安定化や長距離ドライブでの疲労軽減に寄与する大型のフットレストを装備できるようにしたほか、MTモデルでは、ヒール&トゥがしやすいよう、アクセルペダルとブレーキペダルの位置を最適化しています。



走りを実際立たせるインターフェイス

メーターは中央にHonda軽初のデジタル式スピードメーター、その周囲にアナログ式タコメーターを配置した一眼メーターとし、必要な情報が直感的に得られるようにレイアウトしています。

「SPORTスイッチ」(6MTは「SELECTスイッチ」)を押すと、瞬間燃費計がブースト計に切り替わるほか、メーターのカラーを赤基調としてスポーツイメージを演出。レブリミットに近づくとスピードメーター外周がフラッシュするレブインジケーターとして機能するようになります。



DEFAULTモード選択時



SPORTモード選択時



瞬間燃費計



ブースト計

Photo:α(CVT)